

令和7年10月31日

府中市議会議長
佐藤 新悟 様

府中市議会 市政会
会長 松村 祐樹

行政視察報告書

行政視察を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

1. 日 時 令和7年10月8日（水） ～ 令和7年10月10日（金）

2. 視察地及び調査事項

- A. 10月 8日（水）宮城県石巻市「震災遺構門脇小学校について」
- B. 10月 9日（木）栃木県宇都宮市「ライトラインについて」
- C. 10月10日（金）栃木県「栃木県総合運動公園について」

3. 視察者

- （会長） 松村 祐樹 （幹事長） 秋山としゆき
- ・ 比留間 利蔵 ・ 横田 実
 - ・ 大室 はじめ ・ 宮田 よしひと ・ おぎの雄太郎

4. 視察内容詳細について

※別紙の通りとなります。

A. 宮城県石巻市「震災遺構門脇小学校について」

視察日 10月8日(水)

視察時間 13時30分～15時00分

視察場所 石巻市震災遺構門脇小学校

説明員 ・石巻市議会 議長 遠藤宏昭 様
・石巻市危機管理部震災伝承課 主幹兼震災伝承推進係長 高橋広子 様
・石巻市議会事務局 主査 菊池光大 様

出席者 松村祐樹、秋山としゆき、比留間利蔵、横田 実
大室はじめ、宮田よしひと、おぎの雄太郎

① 石巻市より歓迎挨拶

本日は、遠路はるばる石巻市にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。
震災から15年目を迎えますが、現在の中学生は震災を経験していないことから、この震災の歴史を次世代に継承することが大切であります。石巻市に襲来した大津波は、海岸から門脇小学校までにあった約4,500人の住居を飲み込みました。この門脇小学校にも津波が襲い、そして火が出た住居が流れ津波火災の被害に見舞われました。津波火災の遺構は、全国で門脇小学校一つとなっています。ぜひ本日の視察を、府中市の防災・減災に役立てていただければと思います。

② 府中市議会市政会松村会長より挨拶

本日は、市政会の会派視察を快く受け入れていただき誠にありがとうございます。
私たち府中市議会の定員は30名であり、市政会は8名の議員で活動しております。府中市は都心から私鉄で20分のところにお位置しており、都全体でちょうど中心の当たりとなります。
また、市中心部には1900年の歴史がある大國魂神社、そして天然記念物のけやき並木が表玄関としてお迎えをしているところでございます。
さて、本日は震災遺構の門脇小学校を視察させていただきます。14年前の東日本大震災を忘れることなく次世代に継承し、そして本市の防災減災に繋げていくためにご教授をお願いします。

③ 事業内容の説明

2011年3月11日東日本大震災が発生し、学校にいた児童・教職員は教室で身を守り、校庭へと避難を始めた。震災前から3次避難までの訓練をしていたこともあり、発災15分後には高台になる日和山へと避難が終わったが、地震から約1時間後には大津波が襲来し、南浜・門脇地区では500人を超える方が犠牲となった。そして被害を受けた家屋から火がでたことにより津波火災が発生し校舎は

炎に包まれる。当時の被害状況を保存した「石巻市震災遺構門脇小学校」の展示館では、地震によりポンプ小屋のシャッターが歪み出動できず、津波被害にあった消防ポンプ車が展示しており、津波の威力を感じることができる。先に進むと、津波と津波火災に見舞われた本校舎は、当時の震災状況が感じ取れるよう保存され、体験者の記憶と言葉を絵で表現した「記憶を紡ぐ」空間、石巻平野に繰り返し襲ってきた災害の記録、被災した学校に残された防火扉や下駄箱、黒板等の展示が続き、市民に避難を呼びかけるラジオ石巻の音声は、当時の緊迫した状況を伝える。展示の最後には、震災当時は7,000戸が設置され、一番長い方では約8年間住まわれた仮設住宅が残されている。

④ 主な質疑応答

Q. 当時の状況を伺いたい。

A. 震度6強の地震が発生し、早い地区では約15分後に津波が襲来した。はじめは地面をスーと流れてきた海水は、次の瞬間には数メートルの津波となった。津波が襲うなか門脇小学校にも約40名の住民が校舎へと逃げ込んだ。

Q. 当時の市民の防災意識を伺いたい。

A. 地域によっては津波を想定しておらず、避難が遅れた可能性がある。震災2日前にも大きな地震があり、この地震により訓練を行った企業や学校では被害を免れた事例もある。

Q. 校舎の3階部分の延焼が激しいがなぜか。

A. 消防の現場検証でも分かっていないが、おそらく階段から炎が上がり3階まで延焼が広がったのではないかと思う。

Q. 震災後の復興状況はどうか。

A. ハード面の復興は、ほぼ100%といわれているが、心の復興は道半ばである。

⑤ 視察に当たっての所感

全国で唯一の津波火災遺構である門脇小学校は、震災の事象と教訓を伝え続けるために被災した校舎の一部を残すことだけではなく、避難を考えると時に垂直避難だけでは難しいこと、そして過去の震災を自分事としてどう考えるかを問いかける展示となっていた。防災・減災の取り組みとしては、日頃からの実践的な訓練が重要であり、地域の防災意識を高める取り組みと地域の助け合いの行動によって、一人でも多くの住民の命を守ることに繋がることを改めて学ぶこととなった。本市においても首都直下地震や南海トラフ地震に備え、自分の住んでいる地域の過去の災害を振り返り確認しておくこと、1次、2次避難後の行動も想定し訓練を実施しておくこと、そして何よりも災害発生時には、訓練以上のことはできないことを認識することが重要であると感じる。



B. 栃木県宇都宮市 「ライトラインについて」

視察日 10月9日(木)

視察時間 13時30分～15時30分

視察内容 交通未来都市うつのみやオープンスクエアにて説明

説明員 ・(挨拶) 宇都宮市建設部 LRT 整備課協働広報室 副主幹 鈴木健一 様

出席者 松村祐樹、秋山としゆき、比留間利蔵、横田 実
大室はじめ、宮田よしひと、おぎの雄太郎

① 宇都宮市より歓迎のご挨拶

本日は宇都宮市によろしくお越しくございました。

本日は、2023年8月に開業したLRT事業について説明をさせていただきますが、先に宇都宮市のまちづくりの考え方について説明します。本市の成り立ちは、宇都宮駅を中心に発展をしてきたが、合併を繰り返したことにより、旧市街地が点在している。そこで、旧市街地を地域拠点とし、それぞれの拠点を結ぶNCC(ネットワーク型コンパクトシティ)を目指してまちづくりを進めています。本日は、その点も踏まえて、LRT事業について説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

② 府中市議会市政会 松村会長よりご挨拶

本日は、お忙しい中にも関わらず視察の受け入れありがとうございます。私たち府中市議会市政会は8名で活動しております、我が会派から議長を出しております、本日は全国都市問題会議出席のため7名でまいりました。府中市の紹介をさせていただきますが、市内には東京競馬場や3億円事件で有名な府中刑務所などがあり、人口26万人を有する中核都市であります。さて、本日の視察のテーマは「ライトラインについて」であります。本市においても、公共交通網の整備については大変重要なテーマでありますし、市内をコミュニティバスも運行しておりますが、ここで運行計画の見直しも行ったところであります。本日も説明いただき、貴市に生まれたLRT事業の取り組みについてご教授いただき、本市に持ち帰り活かしていきたいと思っております。

③ 事業内容の説明

宇都宮市においては、全国に先駆けて「NCC(ネットワーク型コンパクトシティ)」の形成に取り組んできた。この地域拠点を東西でつなぐ新しい公共交通が「芳賀・宇都宮LRT(ライトライン)事業」である。基幹公共交通としてライトラインを整備し、空白地域の解消のためにバス路線の再編、郊外地域ではタクシー事業者による地域内交通等の導入を進め、誰もが移動しやすいネットワークの

構築に努めている。約 30 年前に構想のきっかけとなったのは、宇都宮駅の東側の工業団地に向かう交通渋滞が激しく、解消に向けて栃木県が動きだしたことである。しかし、事業の採算性と実現性が見通せず約 10 年動きはなかったが、2007 年に国の上下分離方式の事業スキームができたことにより風向きが変わり、2008 年には宇都宮市の総合計画にまちづくりの基幹事業として位置づける。2015 年には、運行を担う官民連携の新会社（第 3 セクター）である宇都宮ライトレール株式会社が設立される。そして総事業費 684 億円の宇都宮駅東側の整備が進められ、2023 年 8 月 26 日開業記念式典を迎えて運行が開始される。今後は JR 宇都宮駅西側の整備（整備区間約 5 km）について、2030 年代の開業を目指し検討を進めている。

④ 主な質疑応答

Q. 施設使用料で維持・管理ができていますか。

A. 一般会計の予算ベースで 7,000 万円確保しているが、稼働を始めると機器の故障などがあり、メンテナンス代等で 2,000～3,000 万円の不足がある。不足分については基金等を活用しているが、将来に向けては、長期的なメンテナンス計画を策定する予定。

Q. ライトラインの事故対応については。

A. 道路交通法の車と同様の処理でよいとため、現場検証後の約 30 分程度で運行が再開することができる。

Q. ライトライン整備による、まちづくりの変化はあるか。

A. ゆいの杜地域では人口の増加で、850 人規模の新設の学校を設置する等の効果がある。

Q. JR 宇都宮駅周辺へ車で買い物客の誘導について、地元商店会等から車の乗り入れを望む声はないか。

A. 商店会の方々からも、渋滞の緩和のために車ではなく公共交通機関で来てもらいとの声がある。

Q. 当初の計画では西側も含まれていたと思うが、東側から整備した理由については。

A. 東側の交通渋滞で始まった事業であり、東側にはもともと建物が少なく事業を進めやすかったことも理由の一つである。

⑤ 視察に当たっての所感

芳賀町工業団地等に勤務する方々の出勤時間の渋滞緩和という地域課題から進めてこられた LRT 事業は、渋滞緩和という課題解決のみならず、ライトラインの沿線人口の増加、沿線地価の高騰、沿線にアーバンスポーツが楽しめる「アークタウン宇都宮」の整備、民間事業者の工業団地への新規投資額が 1.100 億円を超える等、様々な効果が生まれていることが分かる。また、市民のライフスタイルが変化し、市民の外出率をはじめ、食事娯楽などの交流機会、平均歩数もそれぞれ上昇している。この歩数の増加や市民の交流機会が上昇していることで、医療費抑制の効果も生まれているという。

視察の最後にライトラインに乗車して注目するのは、車両と各種施設のデザイン性である。トータルデザインを採用し、明示性や魅力を高め、親しんでいただけるよう統一されたデザインのライトラインは、まさに宇都宮市の顔になっている。そして、全国で初めて武蔵野市で導入されたコミュニティバスについても、高齢市民の買い物等の移動手段の課題から生まれており、公共交通に対する地域の課題から自治体の発展やまちづくりにつながるケースとしては類似した事例であると考える。

本市ではライトライン整備は難しいと考えるが、基幹公共交通を軸とした公共交通ネットワーク構築に向けての考えと、公共交通を基軸としたまちづくりについて大変参考になり有意義な視察となった。

交通未来都市うつのみやオープンスクエア

令和7年10月9日（木）



C. 栃木県「栃木県総合運動公園について」

視察日 10月10日（金）

視察時間 10時00分～11時30分

視察内容 栃木県総合運動公園

説明員 ・（挨拶）栃木県生活文化スポーツ部スポーツ振興課 課長補佐 大出佳明 様
・栃木県生活文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ施設担当 課長補佐 松島靖幸 様
・栃木県生活文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ施設担当 主事 山村理記 様

出席者 松村祐樹、秋山としゆき、比留間利蔵、横田 実
大室はじめ、宮田よしひと、おぎの雄太郎

① 栃木県より歓迎のご挨拶

本日は、本県にお越しいただきまして誠にありがとうございます。この栃木県総合運動公園につきましては、国民体育大会と全国障害者スポーツ大会の主要会場として活用され、当施設ではサッカーの栃木 SC やバスケットボールの宇都宮ブレックスが活動しています。貴市においてもトップチームと連携した「FUCHU-NEXT」の取り組みを進められていると伺っております。

本県としても栃木県スポーツコミッションを立ち上げ、トップチームとの連携事業や合宿所誘致等のスポーツを活用した取り組みを進めております。本日は、本県の取り組みが少しでもお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

② 府中市議会市政会松村会長よりご挨拶

本日は行政視察にご協力いただき、心から感謝申し上げます。府中市は東京都の中心に位置しており、中心市街地の府中駅を降りますと再開発事業が終わりました商業ビルが並ぶ街並みとなっておりますが、古くは武蔵国の国府が置かれ、江戸時代には宿場町として栄えてきた街でございます。本日の視察では、貴県の日環アリーナ栃木をはじめとしたスポーツ施設を視察させていただきます。本市では令和元年の東日本台風で総合体育館が浸水の被害を受けました。この体育館を府中基地跡地留保地に移設する考えが示されております。そのような状況の中で、この栃木県総合運動公園の施設と取り組みを拝見し、本市に持ち帰り活かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

③ 事業内容の説明

平成 26 年に策定した総合スポーツゾーン全体構想に基づき、県民誰もがスポーツを楽しみ、健康づくりを図れる施設として、また、第 77 回国民体育大会及び第 22 回全国障害者スポーツ大会の開催に向け、競技力向上を目指した選手育成など、スポーツによる人材育成に寄与する県民総スポーツの推進拠点として整備した。当施設は三つのエリアに分かれており、既存の総合運動公園に加え、元競馬場跡地の北エリア、元警察関連施設跡地の東エリアで整備されている。この三つのエリアには、ネーミングライツを活用した施設として、北エリアの「カンセキスタジアムとちぎ」は陸上競技場兼サッカー場、中央エリアには武道館及び弓道場の「ユウケイ武道館」と栃木ゴールデンブレースの拠点である「エイジェックススタジアム」、東エリアにはメインアリーナや屋内水泳場、飛込みプールを有する「日環アリーナ栃木」が整備されている。この「日環アリーナ栃木」は、PFI 方式で整備運営され、施設完成後に所有権を公共に移転し、施設の運営・維持管理を民間に委ねる手法の BTO 方式で行われた。

当施設では、県内プロスポーツチームとの事業連携として人権啓発活動を行い、栃木県スポーツコミッションでは宿泊誘致事業として「野球台湾ナショナルチーム」のキャンプ地誘致、県内プロスポーツチームである「栃木ゴールデンブレース」と「エイジェックス」が連携し総合運動公園本球場（エイジェックススタジアム）で民間活力の導入を進める等、広大な土地で各施設を活用した取り組みを進めている。

④ 主な質疑応答

Q. 防災機能について伺いたい。

A. 防災機能としては、備蓄倉庫やヘリポートの整備をしているが、県民の避難を受け入れる拠点ではなく、首都圏で大きな災害が発生した際の支援拠点として考えている。

Q. 日環アリーナの一般予約については。

A. プロリーグや全国大会等を優先しており、その他は秋の調整会議で 6 割が埋まってしまう状況で、土日祝日の一般予約は難しい状況である。

Q. コンサートやエンタメの活用状況は。

A. 会場の空きがないことに加え、天然芝の管理、防音設備がない等のことから、開催実績はない状況にある。

Q. 栃木県は車社会と認識しているが、駐車場は不足していないか。

A. 駐車場については課題があると認識しているが、近隣住民に配慮し駐車場の拡充は考えていない。また、プロリーグの試合開催日については、公共交通機関の利用促進を周知すると共に、シャトルバスを活用するなどして対応している。

⑤ 視察に当たっての所感

国民体育大会等を契機に整備がすすめられた広大な総合運動場は、民間活力も導入されたメイン施設に加え、市民が利用しやすい第2・3の施設も整備されていることから、見るスポーツ、するスポーツの推進も期待できる施設となっている。また、日環アリーナ栃木の整備については、PFI方式を活用することで従来の方式と比べると約21.9%の事業費削減を図れている。経済波及効果については試算されていないとのことだが、トップチームとの連携により、県外からも多くの来場がある事がわかる。そして、栃木県で活動しているトップチームだけではなく、スポーツコミッションの取り組みにより、代表チームの誘致や高校・大学の合宿所誘致を進めることで、県内チームとの交流試合等により県内の競技力向上にも寄与している。

今回の施設では、体育館・アリーナ整備のみならず、トップチームとの連携や大会誘致等の点でも大変参考になる視察であった。

栃木県総合運動公園

令和7年10月10日（金）



